

# 経済マンスリー

## [中国]

### 2022年秋の共産党大会を踏まえ景気安定をより強調した中国

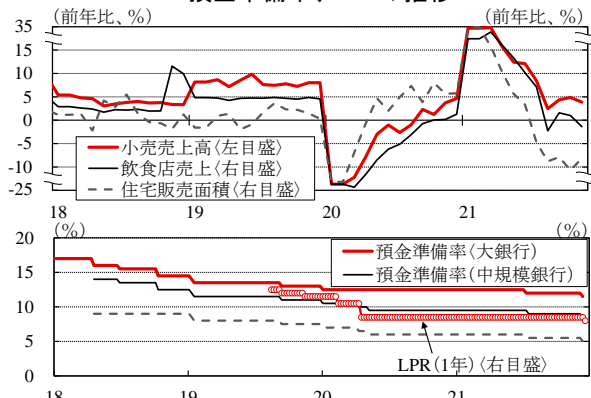
中国では厳格な行動制限や不動産規制が続き、11月も小売売上高が減速したほか、住宅販売面積も二桁減が続いた（第1図・上）。更に恒大集団が「部分的な債務不履行」に認定され不動産市場を取り巻くリスクが高まる等、一段の景気減速が懸念されている。

こうした中、12月の中央経済工作会議の内容が注目されている。例年、同会議の「重点項目」は、翌年にその内容に関する具体的政策が実行されることが多く、経済政策の先行きを占う上で重要な手掛かりとなる。ここ数年でも、2016年の同会議では、「過剰生産能力解消」「デレバレッジ」等が第1項目に掲げられ、翌2017年には包括的なシャドーバンキング規制に関する指導意見が公表された。また、2020年の同会議で新たに「脱炭素推進」が加わった後、2021年に入りエネルギー消費強度（GDP一単位当たり消費量）の超過達成が推奨されたほか、「2030年までのCO2排出量ピークアウトに向けた行動計画」が公表された。

2021年12月の同会議「重点項目」をみると、第1項目に「効果的なマクロ政策の実施」が掲げられており（第1表）、直近の預金準備率、LPR（最優遇貸出金利）引き下げに続く追加緩和や（第1図・下）、今年を上回る地方専項債発行枠の設定等が実施される可能性がある。また、第2及び第3項目で金融市場の安定や不動産市場の発展に触れており、足元低迷している不動産市場を踏まえ市況を下支えする政策を打ち出す公算が高い。加えて、新たに「正しい理解と把握が必要である」項目を追加し、共同富裕や脱炭素等に掲げた。脱炭素目標の短期的な達成は不可能だという認識を示す等、急激な構造改革が経済の下押しとなることを念頭にこの項目を中長期的に達成すべきものという位置づけにした。

来秋の次回共産党大会を経て異例の3期目入りを目指す習近平政権が2022年は経済・社会の安定を最も重視する方針を明確に示したことは、世界経済にとって短期的には安心材料とみなし得る。加えて、今年是中国の構造的な問題が大きく表面化したことを踏まえれば、中長期的な課題への対応も並行して実施していくことが重要と言えるだろう。

第1図：中国の小売売上高、住宅販売面積と預金準備率、LPRの推移



(注) 上段図表にある指標の1.2月は共に1-2月の合計。  
(資料) 中国国家統計局統計等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

第1表：2021年中央経済工作会議の概要

1. 安定的、効果的なマクロ経済政策の実施	7. 社会保障制度等の充実
・引き続き積極的な財政政策と緩やかな金融政策を実施	・新たな出産・育児政策の実施を促進し、人口の高齢化に対応
2. 各種施策による市場の活性化	共同富裕実現のための戦略的目標と実践
・市場参加者の信頼を向上。デフォルトの効率的な管理を実施	・共同富裕を実現するために、経済全体のパイを大きくし次に合理的な制度を決定する
3. 構造改革による経済循環の円滑化	資本に関する行動規律
・構造改革を深化させ国内大循環を円滑化	・法に則り効果的に資本への監督を強化し、資本の無秩序な成長を防ぐ
・「住宅は住むものであり、投機するものではない」という方針は不変だが、不動産業界の好循環と健全な発展を促進	
4. 科学技術政策の着実な実施	一次製品の供給保障
・科学技術制度改革の3年行動計画を実施し、戦略的科学技術力を強化	・資源生産能力の向上、高度な鉱業技術の開発。高水準な農地の建設を促進
5. 改革開放政策の活性化	重大リスクの防止と解消
・ハイレベルな対外開放を拡大し、海外からより多くの投資を呼び込む	・金融リスクを解決するための方針を研究、策定。各組織の協調を推進
6. 地域政策の更なる強化	炭素排出ピークアウト、カーボンニュートラル
・農村の活性化を促進し、新しい都市建設の質を向上	・既存エネルギーからの段階的な撤退は新エネルギーの安全・信頼が前提

(注) 太線で囲われた7つが「重点項目」、その他は「正しい理解と把握が必要である」項目。  
(資料) 各種報道等より三菱UFJ銀行経済調査室作成

照会先：三菱 UFJ 銀行 経済調査室 高瀬 将平 shiyouhei\_takase@mufg.jp

当資料は情報提供のみを目的として作成されたものであり、何らかの行動を勧誘するものではありません。ご利用に関しては、すべてお客様御自身でご判断下さいますよう、宜しくお願ひ申し上げます。当資料は信頼できると思われる情報に基づいて作成されていますが、当行はその正確性を保証するものではありません。内容は予告なしに変更することがありますので、予めご了承下さい。また、当資料は著作物であり、著作権法により保護されています。全文または一部を転載する場合は出所を明記して下さい。